

# AIMÉ JACQUET

- Former Manager of French national football team

LONDON  
SPEAKER  
BUREAU



## Topics

- Leadership
- Motivation

Aimé JacquetはロワールのSail-sous-Couzanで生まれました。工場で働いている間、彼は彼の地元のクラブUS Couzanのアマチュアプレーヤーとして彼のキャリアを始めました。サンテティエンヌに勇気づけられ、彼は1959年にレヴェールに入社し、1961年に彼の最初のプロの契約に署名しました。当時最も成功したサッカークラブの一つ、サンテティエンヌは、彼の11年間で5つの素晴らしいリーグタイトルと3つのフランスカップを獲得しました。クラブと。彼は国内でもプレーしましたがLes Bleusはチームでの彼の年の間にうまく行かなかったので彼の国際的なキャリアは離陸することができませんでした。1973年に、彼は苦い地域のライバルOlympique LyonnaisのためにSaint-Étienneを離れ、そこでプレーヤーとしてのキャリアを終えました。

Jacquetはフランス各地のクラブのマネージャーとして働き、1980年代にボルドーの称賛を受け、3つのリーグタイトル、2つのフランスカップ、2つのヨーロッパ準決勝と1つの準々決勝へと導きました。クロード・ベズ大統領に解任された彼は、モンペリエやナンシーのようなもっと控えめなチームで経営スキルを磨くためにボルドーを離れました。

1991年に、彼は国家技術トレーニングセンターDirection Technique Nationaleの職に就きました。

1992年に、彼は当時のナショナルチームマネージャGérard Houllierのアシスタントに任命されました。

フランスのナショナルチームが1994年のFIFAワールドカップのイスラエルとブルガリアによるランニングからノックアウトされた後、Aimé Jacquetはナショナルチームのマネージャになりましたが、それは暫定的なものでした。有望な一連の親善試合（特に1994年2月のナポリでのイタリアの勝利）の後、彼の暫定的な地位は永久に格上げされた。

Jacquetは当初Eric Cantonaをキャプテンとして選択し、彼をチームのプレイメイカーにしましたCantonaは、FAプレミアリーグでのキャリアの再開に成功し、彼のキャリアの中で最も優れたサッカーの一部を果たしていましたが、彼は1995年1月にCrystal Palaceのファンを蹴りました。

Cantonaが重要な劇作家だったのでJacquetは一時停止の後、チームに大きな変更を加えることを強いられた JacquetはCantonaJean-Pierre PapinDavid Ginolaを落としながら、チームを新しい血で刷新し、Zinedine Zidaneの周りに建てました。トーナメントのためのジャックのプレーヤーの選択は何人かのファンに彼らの歯を磨きました、しかし彼はフランスがユーロ96の資格を得るのを手伝うことに成功しました。

準決勝に至るまでLes Bleusは、Jean-Pierre PapinEric CantonaDavid Ginolaなどの退役軍人がいなくても生き残れることを証明しました Jacquet自身は、Cantonaがなくてもチームはうまくいっていたこと、そしてこれまでのところ彼らを迎えてくれた選手たちに信頼を保ちたいと述べた。96ユーロでのチームの好評は、当面の間、Jacquetがメディアの優雅さにとどまったことを意味し

ました。

96ユーロに続く数ヶ月の間に、Jacquetは一連の親善試合で彼のチームのスキルを磨きました。彼のチームは絶対に攻撃的な作戦を展開しているようには思われなかったため、彼は非常に防御的な戦略を採用しファンを不安にさせた。報道陣は彼の方法を「旧石器時代」と呼び、チームにワールドカップへの希望はないと主張し、チームマネージャーを攻撃し始めた。本質的には暗黙のうちにJacquetはメディアゲームをプレイするよりも彼のチームを助けることに集中することを好んで、餌に沈むことは決してありませんでした。

1997年6月にLe Tournoiで、「辞任！」の叫びフランスのチームがブラジル、イギリス、そしてイタリアの下でゴールを迎えたとき、スタジアムからは聞こえたかもしれません。報道陣はジャケット無能というラベルを付け続けた。

1998年5月、メディアのジャケットに対する不信感は、ワールドカップに出場する22人のプレイヤーのリストの代わりに、28人のプレイヤーのリストを挙げ、スポーツの毎日のレクイペにそのジャケットを論じる論説を書かせた。フランスチームを勝利に導くのにふさわしい人物ではなかった。

しかし、チームが1998年FIFAワールドカップの予選ラウンドでプレーを開始したときに、すべてが変わりました。Jacquetのチームはフランスの歴史の中で最も華麗なチームではありませんでしたが、けがも追放もサスペンションも止まることができなかったことは完全によく油を塗ったマシンであることは明らかでした。1998年7月12日、フランスはワールドカップ決勝でブラジルを3-0で破った。勝利への鍵は、Jacquetがセットピースへのブラジルのマーク付けはやや疑わしいと彼の選手に指摘したときであり、そしてZidaneはコーナーキックから2つのゴールに向かった。

勝利の夜、Jacquetは彼がフランスの最初のチームのマネージャーとしての地位を去っていたと発表しました。彼は代わりにフランスのフットボールのテクニカルディレクター、彼が2006年の彼の辞任まで保有していたポジションになりました。ポジションは現在ジェラルドHoullierによって置き換えられるJean-Pierre Morlansによって保有されています。

ジャケは1998年にLégion d'honneurのChevalier Knightになり、2007年にOfficer Officerに昇格しました。